

事業報告

自 平成20年4月 1日

至 平成21年3月31日

I 事業の概況

1 事業の経過及び成果並びに対処すべき課題

(1) 概況

当期における日本経済は、北京オリンピック開催に伴い一時的にアジア経済の発展等見られたものの、原油の高騰及びサブプライムローン問題等を背景とする、世界的規模の金融危機による深刻化により、消費マインドの低下等、依然不安定要素が多く見られ、先行きが不透明な状況であります。

一方、北海道経済は、7月の北海道洞爺湖サミット開催に伴い、一部経済効果も見られ、また北海道自身が環境宣言を行う等、同サミット開催に伴う、道民の環境に対する意識等より高まったところではありますが、石油製品の値上がりに伴う原料高騰及び官公庁の予算削減等、建設業を含め北海道経済は依然厳しい情勢が続いているところであります。

(2) 札幌丘珠空港の乗降客利用状況

当空港における年間乗降客数の動向は、北海道内の経済状況の低迷及び航空運賃値上がり等の関係から、354,786人・前年度比 Δ 14,359人(Δ 3.9%)・搭乗率59.6%(Δ 2.1%)となったところであります。

なお、9月に達成した当空港ビル利用者600万人達成に伴い、当該記念事業のメインイベントとして、11月2日～3日の2日間、「空の北前船」と称し、当丘珠空港から約35年ぶりに道外チャーター便を、青森三沢空港へ就航し、大きな反響を得たところであります。

【路線別 乗降客数】

単位:人 率:%

路線	実就航便数	乗降客数	乗降客数		搭乗率	前年度対比
			構成比	前年度対比		
函館	4,489	133,968	37.8	Δ 2.3	61.1	Δ 7.8
釧路	2,984	72,903	20.5	Δ 19.1	51.6	Δ 3.6
根室中標津	2,103	82,874	23.4	11.3	70.4	7.4
女満別	1,408	45,349	12.8	Δ 5.1	57.5	Δ 2.3
稚内	681	19,550	5.5	Δ 0.6	51.3	Δ 0.2
三沢チャーター便	4	142	0.0	—	100.0	—
合計	11,669	354,786	100.0	Δ 3.9	59.6	Δ 2.1

(3) 主たる事業

① 利用者サービス向上等対策事業

平成20年5月より、札幌丘珠空港ビルが札幌圏の空の玄関口として、開業以来、約16年経過し、公共的施設の要素もある空港ビル施設として、バリアフリー及びユニバーサルデザインの対応を迫られたため、当社からこの際に自らを「空路の駅」として機能再評価するとともに、今後なお一層利用者の高齢化が進むこと等、弱者対策を含め計画を検討しておりました。

また、将来に向けて、利用者等の「空の安全安心の確保」及び「顧客満足度の向上」を如何に図るべきか等、幅広く知識者の意見を取り入れ、本改善計画に役立たせたいとのことから、利用者代表として札幌商工会議所及び行政機関の国土交通省・北海道・札幌市並びに運航会社である全日本空輸(株)及び(株)エアニッポンネットワーク並びに(株)北海道エアシステム等の関係者と、札幌丘珠空港ビル利用者サービス向上検討委員会を設置し、当該委員の意見等を取りまとめ、11月末提言書をまとめたところであります。

② 空港をより元気に活性化を図るための事業

当空港及び当社をより元気に活性化を図るため、当社株主の内、金融機関等からなるシンクタンクに、調査研究を依頼した結果、昨年6月に調査報告書が提出され、12月に合同報告書として提出されたことから、これを丘珠空港に関する活性化対応策及び当社に関する活性化対応策に分け、今後各々小委員会等にて具体的活性化対応策等をさらに検討し、順次実践することとし、当社経営戦略に生かして参りました。

具体的には、約35年ぶりとなる道外チャーター便の就航を始め、市内中心部のアクセス標識の設置策並びに地域への還元策等を協議し、実施したところであります。

③ 現空港ビル利用者600万人達成記念事業

平成20年9月12日に、当空港ビルが平成4年2月開業以来、利用者が600万人を達成したことから、当該600万人達成セレモニーを行ったほか、当該記念イベントとして、「札幌丘珠空港の四季」と称した写真グランプリコンテスト及びロビーコンサート並びに落語の寄席等、各種イベントを毎週行ったところであります。

更には、当該記念のメインイベントとして、11月2日～3日の2日間、「空の北前船」と称し、三沢空港振興会及び三沢空港利用促進期成会との共同企画で、当丘珠空港から約35年ぶりに道外チャーター便を青森三沢空港へ就航し、大きな反響を得たところであります。

④ 空港周辺地域との連携及び共生事業

乗降客以外の地域等の来訪者に対し、当空港ビルにより身近に足を運んでいただけるよう、例月様々なイベントを開催し、併せて航空知識の普及及び教育事業の一環として空港見学等希望される各種団体に対し、説明等を行うボランティアスタッフ 16 名が、各種団体等に対して、丘珠空港への理解度が高まるよう協力いただいたところであります。

また、空港周辺連合町内会に対し、札幌市の「さぽーとほっと基金」を通じ、指定寄付を行い、空港と地域が共存共栄出来るシステムを構築したところであります。

2 今後対処すべき課題

(1) 空港機能施設事業者としての役割

国土交通省により空港の設置及び管理に関する基本方針が出され、空港ビル会社もその公共性及び重要性を有していることから、今までの許認可制度から事業指定制度となり、去る3月24日付にて、空港機能施設事業者として、国土交通大臣より指定を受けたところであります。

当該指定に伴い、当社も空港機能施設事業者として、空港ビル経営はもとより、空港保安対策及びバリアフリー対策・ユニバーサルデザイン化並びに顧客満足度向上対策等の空港ビル作りが求められております。

当社といたしましては、今般のANAの丘珠空港路線移転表明に伴い、当社経営に多大な影響を及ぼす問題であること等から、今後とも注視するとともに、空港機能施設事業者としての責務を果たすため、利用者サービス向上を図り、道外チャーター便就航等を含めた空港利用促進を含め、空港機能施設事業者としての役割を担って参りたい。

(2) 総括

今後とも経営理念の基、空港の利用促進について引き続き取り組みを行うとともに、札幌の空の玄関口として、また地域との連携及び共生を進め、利用者サービスの向上に努力して参りたい。

3 不動産管理状況

現在入居率は100%でございます。

4 経営状況

(1) 収支状況

収益的収入の内、営業収益では、エアラインとの賃料契約等の見直し及び前期の旧飲食物販店閉鎖に伴う飲食物販店の新規入居等の結果、賃貸収入が増収となったことから、151,952千円(前年度決算対比18,542千円、13.9%増)となりました。

収益的支出の営業費用については、減価償却費(建物付属設備)が法定耐用年数(15年)に達したことによる減及び旧飲食物販店との係争に伴う委託料の減等から、122,247千円(前年度決算対比△12,292千円、9.1%減)となりました。

この結果、営業収支では、営業利益金額が、29,705千円(前年度決算対比30,834千円、2,731.1%増)となりました。

また、営業外損益収支において、営業外収益では、前期の旧飲食店等店舗経営者に対する賃料等相当損害金及び入居テナント依頼による工事等負担金収益が、今期執行がないことから2,166千円(前年度決算対比7,752千円、78.2%減)となり、営業外費用との収支差引金額が1,480千円(前年度決算対比7,067千円、82.7%減)となったところであります。

次に、特別損失として、前期は、旧飲食店等店舗経営者に対する未収入債権等を計上いたしておりましたが、今期は、平成17年度までの退職給与引当金不足額として、4,643千円(前年度決算対比5,221千円、147.1%増)を処理した結果、税引前当期純利益金額26,543千円、最終税引後当期純利益金額は、16,756千円(前年度決算対比23,007千円、368.1%増)となったところであります。

次に予算収支差引き(税込み)の経常収支では、当空港ビル利用者サービス向上及び顧客満足度対策向上を目指した、リニューアル等計画事業推進の自己資金確保のため、営業費用で雇用見送りによる賃金等節減及び諸経費を節減対応した結果、経営収支で、35,703千円(予算対比16,543千円・86.3%増)となりました。

また、法人税及び住民税等の納税額では、経営収支好転のため、9,786千円(予算対比6,682千円・287.5%増)の支出となり、その結果、収益的収入及び支出差引では、21,274千円(予算対比9,861千円・86.4%増)と好転となったところであります。

資本的収支の内、建設改良費については、同リニューアル等工事計画の延期等に伴い、当該分等の建設改良費の予算の内、53,858千円が未執行となったことから、資本的支出が11,142千円となりました。

(2) 資金状況

当期収益的収入及び支出差引額の好転及び当該リニューアル等工事計画の延期の要因による建設改良費等予算未執行による支出減に伴い、資金状況は、154,296千円(前年度決算対比54,948千円・55.3%増、予算対比82,620千円・115.3%増)となったところであります。

5 来期の課題

このように当期は、黒字決算となりましたが、今後ANA丘珠空港路線移転問題等、当社を取り巻く環境は厳しい状況が予想されることから、各関係先等と連携し、空港施設機能事業者としての役割を担って参りたい。

また、札幌丘珠空港の付加価値をさらに高めるよう、より元気に活性化させるための提言を実践するとともに、各エアライン等を含む関係機関と連携し、チャーター便の就航及び搭乗率向上対策として、祝祭日等の利用者拡大PR等及び就航先空港との連携・観光客の誘致及び冬期の就航率向上を図るため空港施設の安全確保の要請等に加え、各種イベント等を開催し、地域に愛される空港づくりに引き続き取り組んで参りたい。

今後とも札幌の空の玄関口として、地域に密着した利用者にやさしい空港を目指すべく、利用者サービスの向上を主に、利便性の高い空港づくりに努めて参ります。

6 設備投資の状況

今期は、当空港ビル冷暖房設備の主部分の交換及びフライトインフォメーションディスプレイシステム（FIDS：ソラリー）制御装置更新等に関する費用等10,611千円の建設改良事業を行ったところであります。

（なお、リニューアル等計画に基づく概算設計費は仮勘定整理）

7 資金調達の状況

当期中に実施した設備投資の所用資金（10,611千円）はすべて自己資金を充当いたしました。

8 入居者（平成21年3月31日現在）

① 航空会社

株式会社エアーニッポンネットワーク

株式会社北海道エアシステム

② 飲食店

おかだま食堂 株式会社中央調剤

③ 物販店

ノールマルシェ 札幌製菓株式会社

④ レンタカー

株式会社トヨタレンタリース札幌

ニッポンレンタカー北海道株式会社

株式会社マツダレンタリース

オリックス自動車株式会社

株式会社日産カーレンタルソリューション

三愛自動車工業株式会社

⑤ その他

北海道札幌方面東警察署丘珠空港警備派出所

国際航空給油株式会社

株式会社ジーエム北都

北都交通株式会社

株式会社日本空港コンサルタンツ

9 業績の推移

回次	第17期	第18期	第19期 (当期)
決算年月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月
営業収益	143,189	133,410	151,953
営業利益金額	12,085	-1,129	29,706
経常利益金額	10,937	7,418	31,185
当期純利益金額	6,171	-6,251	16,756
一株当たり 当期純利益金額	620 円	-628 円	1,682 円
総資産	723,602	719,314	748,449
純資産	681,846	675,595	692,351

記載金額は千円未満を端数処理しております。

II 会社概要 (平成21年3月31日現在)

1 主要な事業内容

貸室並びに空港利用施設の賃貸業、航空事業社及び航空旅客に対する役務提供等

2 株式の状況

- (1) 会社が発行する株式の総数 34,320 株
- (2) 発行済株式の総数 9,960 株
- (3) 当期末株主数 9 名

3 株主の状況

株主名	株数(株)	持株比率(%)	株主に対する出資
札幌市	2,600	26.11	0
エアーニッポン(株)	2,500	25.10	0
北海道	1,300	13.05	0
(株)日本政策投資銀行	1,300	13.05	0
札幌商工会議所	862	8.66	0
(株)北洋銀行	648	6.50	0
(株)北海道銀行	450	4.52	0
北海道電力(株)	200	2.01	0
北海道瓦斯(株)	100	1.00	0

4 取締役及び監査役

代表取締役社長	加藤啓世
常務取締役	岡本征夫
取締役	下村邦寛
	松倉秀義
	石前川啓文
	前荒木聖一
	檜森川峰
	関近藤政
	西村耕
	花坂馨
	佐藤上唯
監査役	

当期中の退任取締役

取締役	水原一樹	(平成20年6月19日退任)
取締役	河合正月	(平成20年6月19日退任)
取締役	丑田健滋	(平成20年6月19日退任)

当期中の退任監査役

監査役	福井知克	(平成20年6月19日退任)
-----	------	----------------

5 主要な借入先・借入残額等

なし

6 従業員の状況

男・女別及び人員		単位 人
男子		1
女子		1
合計		2